

非核の政府を求める石川の会 会報

非核・いしかわ

前事務局長・森昭さん「お別れの会」にて

お別れの言葉



故 森 昭相談役

森さん

あなたは今、核兵器のない、原発もない平和な国で暮らしているのでしょうか。天国ではなく、この世で、平和で安心して暮らせる石川そして日本にしたい。これが、あなたの、そして私たちの希望、願いでした。その願いを叶えるために、私たちは一九八八年八月に、非核の政府を求める石川の会を結成したのでした。

あなたには、非核・石川の会設立以来常任世話人として、そして一九九九年一〇月からは事務局長として会を支えていただきました。

事務局
〒920-0848
金沢市京町 28-8
石川民医連労働組合気付
Tel 076-251-0014
郵便振替
00760-0-15689

非核 5 項目

- ① 全人類共通の緊急課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める。
- ② 国是とされる非核三原則を厳守する。
- ③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する。
- ④ 国家補償による被爆者援護法を制定する。
- ⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する。

特に毎月の会報は、殆どお一人で作成され、第一四九号まで号を重ねることができました。お陰さまで非核・石川の会も細々ではありますが、今まで続けることができました。

そして二〇一一年七月からは、事務局長を神田順一さんに引き継いでいただき、編集体制も整い、会の活動も一挙に活発になってきました。

あなたには、これからはゆったりと大所高所からご指導いただきたいと思っていたところでした。まことに残念です。

あなたの笑顔、そして日程調整のための電話から流れるやさしさに溢れたお声はもうありません。私たちが如何に大きなものを失ったか、考え続けます。

森さん
私たちは、あなたの願い、お気持ちをしっかりと受け止め、核兵器のない、原発もない平和な石川、日本を建設するために「不断の努力」を強めることをお誓いします。

安らかにお休み下さい。
二〇一二年三月二十九日

非核の政府を求める石川の会
代表世話人 井上英夫

花鳥風月

森昭さんの名を知ったのは、七二年師走の総選挙の候補者としてだと思う。高三であった私は、同姓の候補者が有名だったから、大変失礼ながらその時、ついでに記憶してしまった。そしてその後の立候補から、不屈の挑戦者として、私の脳裏に刻まれることになった▼やがて八〇年代末頃から非核・石川の会のニュースが私に届くようになり、それを森さんが編集していることを知り、ほどなくして会員となった▼何かの機会にお見かけしてお話させていただくと、とても柔らかい物腰で、強引さは微塵もなく、かつて国政選挙候補者や党県委員長としての威光との違いに戸惑った。私にとっては不屈の挑戦者が森さんなのだ▼ずっと後になって、ご高齢になってもあの強い精神力でビラ撒きにも携わっていると聞き、強い敬意を抱いたものだ▼一昨年暮れに「あなたに非核・石川ニュースの編集の仕事を…」と森さんから言われた時、これは「縁だと観念した次第▼優しさと強さの有様を身をもって教えてくれた森さんに、一歩でも近づきたいものである。」
(ま)

森昭さんの遺稿について

森さんが急性肺炎で入院された二月九日の前日にファックス送信されてきた原稿を紹介する。

森さんが長年愛用されていたワープロが故障中であり、手書きになっていった。病に伏せながら書き綴られたため、殆ど読めなかった。自宅に電話して必死に聴き取ったものが左記の原稿である。後半部分は森さんの体力が尽きて聴き取りできなかつたが、かほく市議会が昨年一二月定例会で採択した「治安維持法犠牲者への国家賠償法の制定を求める意見書」を県内外に広めることを訴えている。

非核・石川の会も「ふたたび戦争と暗黒政治を許さないために」治安維持法犠牲者に国家賠償法の制定を求める請願の賛同団体となった。森さんの長年の実績と遺志を受け継ぎ、微力であるが力を尽くしたい。
(事務局長 神田順一)

「治安維持法犠牲者への

国家賠償法の制定を求める意見書」

かほく市議会が全会一致で採択

相談役 森 昭

今から八六年前の一九二五年(大正一四年)四月に制定された治安維持法によって、名前とは正反対の弾圧が強行されました。反戦平和を唱える人たちはもちろん、労働者、農民、市民運動等に参加する学者や文化人、宗教家まで犠牲になりました。全国

で数万人が逮捕され、送検された人は七五、六八一人、拷問で獄死した人は一、六九七人に達しています(司法省調べ)。石川でも二〇〇人以上が検挙されています。▲戦後、「戦争犯罪人と人道に反する罪に時効はない」という国際法に基づき、治安維持法は廃止されたが、日本では戦死者に対する国の謝罪も賠償も行われていません。ドイツやイタリアでは国家賠償法が制定され、犠牲者に終身年金が支給されています。▲治安維持法国家賠償要求同盟は、この現状を打開するため、毎年数十万人の署名を・・・

(以下、判読不明)

森 昭さん(非核・石川の会相談役)

政治革新と非核・平和の足あと

一九八八年五月、日本共産党石川県委員会委員長のと看、「非核五項目」に賛同する思想・信条を問わない合意と共同する「非核の政府を求める石川の会」の結成を呼びかけ、同年八月、一一〇人の出席で設立総会を開催。発足時より常任世話人で活動されました。

一九九九年から二〇一一年まで一三年間、四代事務局長として非核・石川の会の活動の中心になり、石川県内の非核の運動に大きな影響をあたえ前進の力になりました。

一九九八年六月、県内全四二自治体の「非核平和宣言」を達成し、二〇〇六年六月平成の大合併で二〇自治体に半減する中、あらためて全自治体が「非核平和自治体宣言」を採択し、政府に意見書を送付

する成果を上げています。

非核・石川の会ニュース(会報)は三二号から一四九号まで、編集制作し毎月発行してきました。

二〇一一年事務局長を退任された後も、常任世話人会や会報編集委員会に毎回出席し、私たちの活動や情勢の見方など、亡くなるまで温かく援助いただき、入院直前まで会報「非核・いしかわ」の原稿を執筆されていました。

県委員会委員長を退任後は「非核・石川の会」「無名戦士の碑建立」「いしずえの会」「石川県革新懇」「治安維持法同盟」「鶴彬顕彰と映画製作の実現」など多岐にわたる活動を献身的にされています。三月二六日死去・享年八三歳でした。

森 富美子夫人のことば

現役時代の夫は多忙な毎日を日本と県政のこれからのために、一日一日を大切に過ごしていた姿が心に刻まれています。晩年は若き日に増して慈愛に満ちた表情となり最後まで大黒柱でいてくれました。

夫婦水入らずで美術館巡りをしたことなども、胸にしまった宝物のひとつです。誠実で優しい人柄に、私たち家族はいつも笑っていられました。人生を共にしようと思ったあの日から五十余年、数えきれない程の思い出が、明日を生きる力です。

「ありがとう。あなたと出会えて幸せでした。」

県内全ての自治体に非核平和施策に関するアンケートを実施

非核の政府を求める石川の会

本紙第一六二号(二〇一二年一月二〇日付)の「花鳥風月」欄に次のコラムを掲載した。

『平和市長会議には現在、世界一五二カ国、五〇九二都市、日本では一〇八五自治体(六二・五%)が加盟しているが、石川県では五自治体(二・五%)に留まっている。また当会の歴代世話人らの粘り強い働きかけにより、県内全ての自治体が「非核・平和宣言」を採択しているが、実際にどのような平和事業が行われているかは不明である。非核・埼玉の会では一八年連続で県内自治体の非核平和行政アンケート(宣言内容、昨年度及び本年度予算額、本年度の平和事業計画、担当部署)を行い、集約結果を公表している。埼玉の会の先駆的な活動に学び、当会でも今年はずいぶん非核平和行政アンケートに取り組んでみたい。』

非核・石川の会では本年四月からこの「非核平和施策に関する県内自治体アンケート」に取り組んでいる。

石川県を含む県内二〇自治体に届けたアンケート調査は次の六項目である。

(非核平和施策に関する調査項目)

- (一) 貴自治体は非核平和宣言を採択していますか
- (二) 採択している場合、宣言の名称、年月日、その形式は
- (三) 非核平和宣言にもとづく貴自治体の行政施策の年間予算額(平成二三年度及び平成二四年度)
- (四) 平成二四年度の平和事業計画
- (五) 平和市長会議及び日本非核宣言自治体協議会の加盟の有無と加盟年月
- (六) 担当部署名とメールアドレス

石川県で実施する際の留意点として、県内自治体の平和都市会議、日本非核宣言自治体協議会の加盟一覧表も同封し、加盟自治体を増やす試みとしても位置づけている。

石川の会では、四月初めに石川県総務部人権推進課と金沢市総務課を訪問し、埼玉の会が作成した「非核平和行政・埼玉県内自治体アンケート第一八回集約結果一覧」を紹介し、今年初めて実施する自治体アンケートへの協力を要請した。他の一八市町総務担当課(非核平和施策担当)にはアンケート資料一式を郵送した。

アンケート集計結果は 六月九日の総会で報告します

今後の計画は次の通りである。

自治体からの回答期限は四月二五日であり、今回の調査結果(概要)については本紙次号(第一六六

号)に掲載し、アンケートの集計結果は、六月九日に開催する非核・石川の会第二四回総会で報告することになっている。
アンケートの集計結果を県内自治体に返送することにより、各自治体の非核平和施策に役立てていただくことを期待したい。

ご案内

非核の政府を求める石川の会第二四回総会

と き 六月九日(土)一三時半～一六時
ところ 金沢市武蔵が辻

近江町いちば館四階研修室1

- 議 題 二〇一一年度活動報告、会計報告
- 二〇一二年度活動方針、予算案
- 二〇一二年度役員選出

記念講演

核廃絶・世界と日本の動きと地方の会の活動
講師 非核の政府を求める会
事務室長 斉藤俊一氏

*総会議案は次号に掲載します

医療・福祉問題研究会講演会

新たな福祉国家を展望する

福祉国家と基本法研究会の取り組み

講師 金沢大学大学院教授 井上英夫

四月一日に井上英夫さんにより「新たな福祉国家を展望する」福祉国家と基本法研究会の取り組み」題した医療・福祉問題研究会の講演会があった。

つながりを断ち切らざるをえない社会

井上英夫さんは全国老人福祉問題研究会会長、高齢期運動サポートセンター理事長、そして生存権裁判を支援する全国連絡会会長として活動している。活動の中で生存権裁判の原告の方々から、一番困っていることは「葬式に出られないこと」との声を聞くと言う。親族の葬式に参列しないということは、縁を切ることに同義と考える人も多い。貧困が人とのつながりを絶ち、生活保護を受けている人を孤立させる要因となっている。

東日本大震災以降、「絆」という言葉をよく耳にする。政府はこの風潮に乗って、あたかも絆があればすべてまかなえると言わんばかりに「共助」を前面に打ち出し、さらなる負担を国民に押しつけようとしている。だが実際は生活基盤が安定してはじめて、人々はコミュニティでつながることが出来る。冠婚葬祭に当たり前に参列でき、趣味を楽しめ、人とながりをもてる生活こそが憲法第二五条の規定する「文化的な」生活と言えるが、政府はしばしば「最低限度」のみを強調し、社会から特に若者か

らは「生活保護受給者の贅沢はご法度」と風当たりが厳しい。しかし、その若者たちこそが非正規雇用・低賃金労働で苦しい生活を強いられ、生活保護受給者などを「敵」として捉えざるをえない状況に追い込まれている。

震災から見えてくる国家のあり方

最後のセーフティネットである生活保護だけでなく、社会保障全体が崩壊の危機にさらされている。構造改革政治からの脱却を期待され政権をとった民主党は財界・マスコミの言説を受け入れ、構造改革路線に回帰した。急速な構造改革路線に対抗するために、人権を「守る」運動だけでなく、私たちの求める国家像―新たな福祉国家の柱となる社会保障の理念・原理・原則を明らかにした社会保障憲章とそれを具体化する社会保障基本法―を掲げる運動の必要性が高まる中、東日本大震災が発生した。

甚大な津波被害に遭った岩手県大槌町吉里吉里地区の高台には、大規模な特別養護老人ホームがある。津波被害を受けず、震災時には避難所となったそのホームの施設長は「津波対策は、高台で大型でなくてはならない。さらに今は個室化がすすんでいるが、より多くの人が入所できるように大部屋に戻しても良いのではないか」と言う。

また、飯舘村にある特別養護老人ホーム「いいいたてホーム」では、利用者は避難せずに現在もいいいたてホームで暮らしている。避難しなかったのは、全員をまとめて受け入れてくれる受け入れ先が見つからなかったこと、高齢者は環境の変化により体調を崩しやすいことと、放射能の影響が少ないだろうことを考えての判断だった。

いずれの場合も考えなくてはならないのは、本人の自己決定は反映されていたかということだ。安全は重要だ。だが安全を確保するために、居住選択の自由を制限できるだろうか。自己決定に基づき、できるだけ安全に暮らせるよう国・自治体が保障することが、真の自己決定の尊重であり、福祉国家のあり方である。それは復興についても同様だ。

社会保障憲章・基本法を携え、新たな福祉国家づくりを

政府と大企業は震災を梃子にし、漁業・農業への資本介入や大企業有利の経済特区の導入などを画策している。復興計画の策定プロセスにも中身にも、住民の姿はない。政府や大企業の押しつけではなく、住民の自己決定に基づいた、住民本位の復興が求められる。住民の中でも意見は分かれるだろうが、合意の形成は民主主義的な議論でしかなしえない。そのためには議論のための時間と、適正な情報が必要だ。

奇しくも、震災は構造改革によって生じた社会の歪みを顕在化させ、社会保障が人々の生活にとってどれだけ不可欠であるかをはっきりさせた。と同時に、政府、大企業などにとっても社会保障分野を営利化・規制緩和する、絶好の機会だと言える。まさしく国のあり方が問われる今、構造改革型構想に対抗する私たちは、社会保障憲章・基本法を携えて新たな福祉国家を求める運動を広げていかなければならない。

(まとめ 長浦久実)

「はだしのゲン」寄贈運動(続報)

被ばく証言を聴く会&ナターシャ・グ

ジーコンサートを成功させましょう

核戦争を防止する石川医師の会(代表世話人 白崎良明)以下、石川反核医師の会)では、左記の「第二五回総会記念企画」を計画しています。

記

- ・日時 六月一〇日(日)一四時～一六時
- ・会場 石川県教育会館三階ホール
- ・企画内容
 - ① 石川反核医師の会から「はだしのゲン」寄贈運動の報告
 - ② 中田喜重さんの被ばく証言を聴く会
 - ③ ウクライナの歌姫 ナターシャ・グジーコンサート
- ・入場料 一般：二千円、中高生：五百円
- ・主催 核戦争を防止する石川医師の会
- ・後援 石川県原爆被災者友の会、石川県生活協同組合連合会、非核の政府を求める石川の会、石川県保険医協会、石川県民主医療機関連合会、九条の会・石川医療者の会、生活協同組合コープいしかわ

長崎で被爆された中田喜重さん(金沢市在住)は、現役時代は放送局に技術者として勤務さ

れていた方で、被爆者が描かれた絵画を写真に納めたデータをたくさん所蔵されています。今回の被ばく証言にあたり、パソコンの映像ファイルプロジェクトを使って紹介していただくことになりました。原爆被災直後の悲惨な様子を被爆者自身が描かれた貴重なデータ(記録遺産)です。

(中田喜重さんの紹介文より)

被爆者の体験画について

私たち被爆者は東海・北陸の七県でブロックを組んでいて共に活動をしておるのですが、今から三五年位前(一九七七年・昭和五二年ごろ)被爆体験画を描く運動を行いました。各県の被爆者が描いた絵は、各県持ち回りで、それぞれの県内何カ所かで「被爆者が描いた体験画展」として開催しました。当時、県内では金沢・松任・七尾などの数カ所かで開催しました。

石川県内で実施した機会に集まった数十枚の絵をカラースライドに撮影したものです。絵の現物は各地で巡回展示を行いました。不運にも、近畿地区で火災にあって焼失してしまいました。したがって、この中の絵の現物は大部分すでに無く、パソコンの画像ファイルとして、以前カメラで撮影・記録してよかったですと思っています。

(ナターシャ・グジーのプロフィールより)

ウクライナの歌姫

ウクライナ生まれ。ナターシャが六歳のとき、一九八六年四月二六日未明に父親が勤務していたチェルノブイリ原発で爆発事故が発生し、原発

からわずか三・五キロで被曝した。その後、避難生活で各地を転々とし、キエフ市に移住する。

ウクライナの民族楽器バンドウーラの音色に魅せられ、八歳の頃より音楽学校で専門課程に学ぶ。

一九九六年、九八年救援団体の招きで民族音楽団のメンバーとして二度来日し、全国で救援公演を行う。二〇〇〇年より日本語学校で学びながら日本での本格的な音楽活動を開始した。

その美しく透明な水晶の歌声と哀愁を帯びたバンドウーラの可憐な響きは、日本で多くの人々を魅了している。



今回の「総会記念企画」の収益金は、石川反核医師の会が取り組んでいる漫画「はだしのゲン」の県内小中学校への寄贈運動募金として活用させていただきます。

非核・石川の会も後援団体として協力することになりました。会員の皆様にもご支援をお願いします。

□ チケットの問合せ等は会報に同封したPRチラシを参照ください。

□ □

非核いしかわの会 リレーエッセイ

核と私

勝木育夫

小学生の頃、質量が膨大なエネルギーとなり、将来は熱源として使えるという夢のような話を小学生向けの科学雑誌で読んだ記憶があるが、実際に私と核との出会いは、大学に入学して間もなく、友人に誘われて、当日広島の原因の調査研究をされていた草野信男先生から提供された数十枚の写真とお話を伺った時である。

当時（一九四九年頃）は写真もガラス板に焼き付けたものだったが、その残酷な様子は鮮明に記憶している。主に熱線による火傷の少年少女や、コンクリートに残った子どもの影（子どもは蒸発してしまっただのか？）などで、お話を聴いた中で、放射線を浴びると白血球（赤血球もだが）が減るため、当時すでに禁止されていた（後に密かに作られていたと知ったが）細菌兵器と同じ効果を生むという話だった。後になればもっと色々なことも解ってくるのだけれど、医学部に入學したばかりの私には余り専門的な知識も無く、ただ核のエネルギーの凄さを感じたものだった。

その後、No More Hiroshimasi の合言葉のもと、流石に原爆は保有されても使用されてはいないが、中東で使われた「劣化ウラン弾」については余り関心が持たれていないのに、私は危惧を持っている。今度の東京電力福島原発の事故だって、恐ろしいことが遂に現実のものとなり、「想定外」が連発されたが、初めの頃メルトダウンは起きないとか、

現在のところ大丈夫とか、原発の立地条件は万全だとか散々言われたが、調べると原発の地域にも活断層が沢山あるとか、初めに結論ありきが多すぎる。

昔から神を恐れるという、日本人の心を忘れて、人間が傲慢になり、自然を征服するかのようになっていたのではなかるうか。自然と共に生きるという気持を蘇らせることが必要と考えている。

持論公論

鴨野幸雄

一国の政治が体たらくになってくるとカリスマ的に大衆人気をバックにマスコミを動員し強権的政治を進める者が現れてきます。そしてその行動の中に全く見過ごすことのできない事件が起こっております。

一つには、大阪維新の会代表の橋本徹大阪市長は、本年二月、市職員に対し、組合活動や政治活動への参加の有無や、投票依頼を受けた経験の有無を尋ね、正確に回答しなければ処分の対象となると言い、匿名での回答は認めないとしました。さらに、政治活動や組合活動へ誘った人物を無記名で通報せよと求めました。キリシタン禁忌を行った江戸時代ならいざ知らず日本国憲法下で強制によって内心を告知させることは、思想良心の自由（憲法一九条）、表現の自由（同二二条）、人間の尊厳の保障（同一三条）に明らかに反しており、また、組合活動について報告を強制することは労働組合に対する干渉や圧迫であり、団結権（同二八条）を侵害する行為といえます。憲法を一番擁護すべき公務員たる市長がこれを実際に行ったことは重大です。しかし、事

の重大性ゆえ各界からその違憲・違法性を指摘され、同アンケートの開封・調査は凍結されました。その調査結果は早急に廃棄されるのが当然であり、市長は職員と市民に謝罪すべきと思います。

もう一つは、大阪維新の会の主導の下、大阪府の「教育行政基本条例」、「府立学校条例」、「職員基本条例」が三月議会で可決成立しました。三者とも多数の問題点がありますが、前二者の教育関係条例の成立は深刻です。

教育は児童生徒の人格形成発展のために行われるものであり、教師と児童生徒の人格的触れ合いが必要不可欠といえます。このため教育の独立性、公正性が強く求められます。この目的に対応するべく戦後、教育委員会を独立・中立・専門の機関と位置づけ、教育目標の設定はじめ教育の重要事項の管理執行に当たらせてきました。そこに本件条例では、政治的である知事が教育振興基本計画の策定に関し、教育委員会と協議するとはいえ、直接的に策定の主体に躍り出たのです。この教育計画に反対する教育委員は罷免事由に当たるとするのです。

このように教育内容に政治が介入するのは、教育に対する不当な支配（教育基本法一六条）に該当します。その他、教育の評価とその免職等、問題点はたくさんありますが、ともあれ本件条例の内容が、大阪維新の会の運動に合わせて全国に広がるようなことがあれば、日本人の意識形成に大変な問題となるでしょう。わたしたちは声を大にして反対運動をしていかなければならないと思います。

詩人会議かなざわ「独標」より

秋の空

独標同人 若松きぬえ

愁いを

一枚一枚に含んだ
鯛雲がゆつくりと

広がってゆく

どこからともなく現われる

とかげの親子が

今日も 飛石の上で

日差しを浴びている

前足をつつぱり

ひよいと顔を上げて

網戸から流れ出る

チェロのひびきに

聴き入る格好で

その波長は

ジャスミンのつるがはびこる

塀まで届き

はね返ってくる広さ

原始のくらしそのままに

子孫をつなぐには

丁度よい空間なんだろうね

住処は人目につかない

雑々としたくさむらの奥深く

追いかけても

そのジャングルでは

見失ない迷ってしまう

奥には

ポワツと昔ながらの

少しは現代風にしつらえた

安らぎの

寝床があるんだろうね

同じ星の

こんな狭い近しい地上を

共有して

アイサツもしたことないのに

共に

命をかかえて

空を見上げている

「和定例句会報」より

宿題「嘘」

佳作

前田大峰 選

嘘八百千代に八千代にいうてきた

一杜

従属の道に真っ赤な嘘の山

林

再稼動ウソであやつるストレステスト

和子

先物でウソで固めた人の金

和子

振り込ませ年金詐欺はA I J

啓

地

偽りは総理が決める再稼動

啓

天

棚ボタの夢に集まるポチの群

一杜

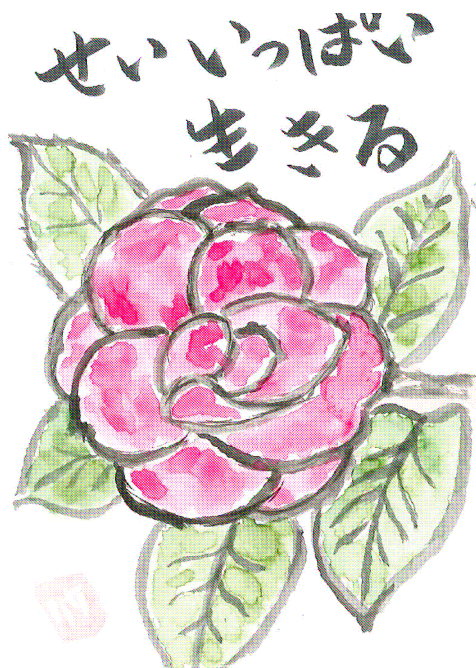
軸

選挙の嘘はしつかり票に成り

絵手紙コーナー

金沢医療生協絵手紙班 竹味恭子

ツバキ 遅い春



《非核平和・行事予定》

- ・四月二十八日(土)：講和条約発効六〇年
- ・五月三日(木)休日一四時：輝け九条石川県民集会・講演「憲法と私」ジェームス三木氏／北川てつコンサート・本多の森ホール・主催九条の会石川ネット
- ・五月六日(日)一八時～二二時：金沢「うたごえの」会・金沢市民芸術村「里山の家」参加費二〇〇円
- ・五月九日(水)一二時半：廃絶街頭署名行動・Mザ前
- ・五月一五日(火)沖繩の施政権返還四〇年
- ・五月二〇日(日)一四時：兼六地域九条の会総会と記念講演：高柳新元全日本民主医療機関連合会会長・石引金沢聖ヨハネ教会
- ・六月二日(土)一八時半：金沢市民劇場第二九六回例会「長崎ぶらぶら節」文学座・野々市フォルテ
- ・六月四日(月)一五時～金沢市民劇場第二九六回例会「長崎ぶらぶら節」文化座・金沢市文化ホール
- ・六月六日(水)一二時：核廃絶街頭署名行動・Mザ前
- ・六月九日(土)一三時半：非核石川の会総会と講演「核廃絶・世界と日本の動きと地方の会の活動」講師：非核の政府を求める会事務室長斉藤俊一氏・いちば館
- ・六月一〇日(日)一四時：第三回核兵器廃絶記念デー・ウクライナの歌姫「ナターシャ・ゲジーコンサート」&被曝証言を聞く会 石川県教育会館三階ホール・主催核戦争を防止する石川医師の会
- ・六月一〇日(日)：核廃絶国民平和大行進輪島市出発
- ・六月一〇日(日)：石川県母親大会・県女性センター
- ・六月一〇日(日)沖縄県議会議員選挙
- ・六月一六日(土)：核廃絶国民平和行進富山県から石川

- 県へ・二四日(日)まで県内行進(詳細は後日)
- ・六月一七日(日)一四時：カンタータ「悪魔の飽食」第二三回全国縦断コンサート石川公演と森村誠一×池辺晋一郎両氏のトーク・主催：石川公演実行委員会・県立音楽堂コンサートホール
- ・六月二三日(土)：治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟一石川県本部総会・勤労者プラザ四〇六号室
- ・六月二五日(月)：非核の政府を求める会総会
- ・七月一日(日)：石川県社会保障推進協議会総会
- ・七月九日(月)一二時半：核廃絶街頭署名行動・Mザ前
- ・七月二二日(日)：反核・平和おりづる市民のつどい
- ・七月二八日(土)一八時四五分～金沢市民劇場二九七回例会「さんしょう太夫」前進座・金沢市文化ホール
- ・七月二九日(日)一四時：金沢市民劇場・右に同じ
- ・八月三日(金)～一六日(木)：「原爆と人間展」・県庁ロビー
- ・八月五日(日)一三時～一六時：横井久美子コンサート・金沢市民芸術村「マルチ工房」・五〇人限定・二千円・金沢うたごえの会
- ・八月六日(月)広島原爆投下の日・原水爆禁止世界大会
- ・八月九日(木)長崎原爆投下の日
- ・八月九日(木)一二時半：核廃絶街頭署名行動・Mザ前
- ・八月二四日(金)～二六日(日)：IPPNW第二〇回世界大会 広島
- ・八月二五日(土)～二六日(日)日本母親大会・記念講演斉藤貴男氏「三・一一以後私たちがどう生きるか」新潟市朱鷺メッセ・主催日本母親大会実行委員会
- ・八月二六日(日)一一時～一七時：第三回「九条の会」北陸ブロック交流会・講演高田健九条の会事務局員・福井市福井県教育センター

- ・九月六日(木)一二時半：核廃絶街頭署名行動・Mザ前
- ・一〇月九日(火)一二時半：核廃絶署名行動・Mザ前
- ・一一月六日(火)一二時半：核廃絶署名行動・Mザ前
- ・一一月二三日(木)～二五日(日)：日本平和大会・東京

《編集室より》

一九八八年八月一〇日、非核・石川の会結成総会
 ▼一九八九年八月一日ニュース第一号を発行する
 ▼最初の一号から三〇号は黒田隆一事務局長、後の三代事務局長が担当し発行する▼その後事務局長不在で約一年間休刊したが、三二号～一四九号まで四代森昭事務局長が担当し発行を続けてきた。▼二〇一〇年一月八日、第三回常任世話人会で非核・石川の会ニュースを、個人編集から集団編集にする提案があり、森昭事務局長、川本浩平、永山孝一、松井和夫各氏を編集委員に任命し、一一月九日編集委員会を開催、新しい発行体制と編集委員会のあり方を討議した(後日、神田順一氏を編集委員に任命)
 ▼ニュース編集会議は、非核・石川の会二二年の歴史の中で画期的なことで、組織的な編集・発行体制になった。二〇一一年六月発行の一五五号から会報「非核・いしかわ」に改称し、毎号編集会議の方針をもとに編集委員が作業を分担し発行している。▼新しい事務局体制と集団編集・発行は森昭さんの長年の念願であった。非核・石川の会は歴代事務局長の熱意を継承し、会報「非核・いしかわ」を中心に据えた活動を進めて行きます。(平)